

No.5

2021年10月発行

# What's up



国際交流協会青年部

Mail : kokusaikoryuseinenbu@yahoo.co.jp

暑さもやわらぎ、秋の虫の声が聞こえる時期になりました。第5弾となる今回は関東や関西にいるメンバーの近況をお届けします。中山中学校長の傘井先生よりメッセージもいただきましたので紹介します！

7名の中学生を引率してテメキュラを訪問したのは2年前のことです。私にとっての一番の収穫は、交流を通じた生徒たちの成長していく様子を目にし、この交流事業の意義や効果を実感できたことでした。青年部の皆さんもテメキュラ訪問をきっかけに夢や目標を見つけた人やその経験が仕事等で活きていると感じている人は少なくないと思います。交流経験を活かした皆さんの様々な分野で活躍する姿こそ、この交流事業の成果であるとともに、発展させる大きな原動力となっているのです。新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、中学生のテメキュラ訪問が再開されますことと青年部の皆さんの益々のご活躍を願っています。

傘井 浩史（中山中学校長）



私は中学生の時、周りの方の勧めもあり、テメキュラ交流研修に参加させていただきました。

それまでは英語が一番苦手な教科であったのですが、コミュニケーションツールの一つとして英語を学ぶことの大切さに気づき、現在は大学で英語と国際政治などについて学んでいます。新型コロナの影響で今まで当たり前であった人と会うということが難しくなりましたが、一方で繋がりの大切さを再確認する機会となりました。その意味でも長年に渡り交流を深める大山町とテメキュラ市の絆は素晴らしいものであり、今後もその思いが受け継がれ交流事業が継続される事を祈っております。



# 前田 秋気

東京でミュージシャンとして活動している前田秋気と申します。テメキュラへは中学三年生の時に行かせて頂きました。

初めて訪れる外国で直接その土地の歴史や文化に触れ、向こうの家族にホームステイさせて頂くという体験は、当時鳥取の大山町という小さな町で育った自分にとっては大きく知見を広げる機会となりました。

少しばかりの恐怖心も、自らコミュニケーションを取りに行くという行為によって、言語の壁を超えるという大きな喜びに変わりました。

高校を卒業後すぐに BLUE MAN GROUP というショーに従事し、外国人のパフォーマーと抵抗無く交流出来たのも、テメキュラでの体験があったからこそだと思います。

現在も東京を拠点にしつつ、世界中に行ける仕事に携わっているので、いつかまたテメキュラを訪れる事が小さな夢でもあります。



# 氏 春郁

中学生でテメキュラを訪問させていただいたおよそ 13 年前を懐かしく思い出します。高校を卒業し専門学校進学のため上京、現在も東京で仕事をしています。東京では外国の友人たちに囲まれ日々を過ごしています。中学時代のテメキュラ訪問以来アメリカへは行けていませんが、ヨーロッパやアジアの国々へは何度か旅しました。コロナで大変ないま、なかなか海外へ行くことが出来ないのはとても寂しいですが、またこのような形で国際交流協会の活動に参加でき嬉しく思います。今後も協会の皆様とのイベント活動、またテメキュラへ再訪できることを楽しみにしています。

新型コロナで訪問団の行き来こそできない今ですが、交流の一つとしてテメキュラへ贈り物をしました！

“コロナでもわたしたちは繋がっています！少しでも早く交流事業が再開できますように！”という思いを込めて、大山町産の竹炭を贈りました。交流を表すイラストや竹炭の使用例を載せたメッセージカードとともに無事にテメキュラへ届き、とても喜んでいただいたようです！

